［た　よ　り］

長崎県透析医会の設立にあたって

新里　健

はじめに

この度，長崎県の日本透析医会会員の賛同を得て，平成15年4月1日を期して日本透析医会の長崎県支部を立ち上げることとなった．

本県には昭和45年より長崎県腎不全対策協会が存続し，永年にわたり透析医療を含めた腎臓病に関連する諸事に広く対応してきている．このこともあって，しばらくは透析医会設立の必然性は乏しいように思われていたが，同協会は県の依頼を受けて開設され，腎臓移植推進事業をはじめとした各種の公的事業運営を委託されている．このため多分に公的機関としての色合いが強く，医会の位置付けとは若干の相違があるとの見解を得て，本医会はこの度発足の運びとなった．その活動方針は以下に述べるとおりであるが，腎不全対策協会との協調を図るとともにそれぞれの活動分野の住み分けを明確にして行く必要があり，今後同協会との綿密な連絡，協議を行う予定としている．

ともあれ，当支部としてはまず会員数の増加に努めるとともに会員相互間の連携を密に行って，医会として透析医療の現場におけるその活動の有益性が実感できるような内容を展開していくことが肝要と思われる．現在のところ本会の現会員数はまだ16施設17名に過ぎないが，その運営については多くの提案や企画が示されており，会員一同は素より患者会などからも大いにその活動に期待が寄せられている．このところ，近日中の入会を希望される施設や先生方も予測され，一層の会員増加により充実した活動を期しているところである．

1　長崎県透析医療の沿革

本県の透析医療の歴史は古く，本邦での透析医療の黎明期であった昭和32年には，すでに持続的腹膜灌流が長崎大学泌尿器科で行われ，急性腎不全の救命に成功している．その後，昭和37年には当時の長崎大学医学部泌尿器科教授，故近藤厚先生の御指導の下，コルフ型人工腎臓が導入され急性腎不全の救命に成功して，長崎県の人工透析療法の端を発することとなった．

昭和44年2月には長崎市内の病院でキール型人工腎臓装置を用いた慢性透析療法が開始され，翌年には国立大学としては全国に先駆けて長崎大学病院に多人数用の灌流液供給装置を備えた人工腎臓センター（現腎疾患治療部）が設置された．ほどなく市立長崎病院（現長崎市立病院成人病センター）でも透析が開始されるようになり，長崎県南の透析医療の中核施設として現在に至っている．

県北では佐世保市立市民病院（現佐世保市立総合病院）で昭和42年頃よりコルフ型人工腎臓装置を用いた試みに着手され，その後透析室を設置して同地区のセンター的な役割を担ってきた．

この他，大村国立病院（現国立病院長崎医療センター）や諫早総合病院などが中心的存在となって各地区の透析医療が運営されている．また，本県の特徴でもある離島においては，永年にわたり医療全般に対する充実が懸案であったが，近年になって整備が進んできてお

長崎県透析医会会長

り透析医療の環境についてもおおかた整い，壱岐，対馬，上五島，下五島などで公的医療機関を中心に透析施設が設置されている．

一方，腎移植についてもその歴史は古く，昭和40年1月から46年の間に9例の移植手術が泌尿器科教室で行われていた．その後3年ほど途絶えた時期もあったが，昭和50年以降は移植関連の制度変更など種々の変遷を経過しつつも，腎不全対策協会の熱心な移植推進の努力のもと，長崎大学泌尿器科（金武洋教授）と国立長崎医療センターにおいて，現在まで継続されている．

長崎県における透析医療はこのような歴史を経て現在に至り，平成15年3月末で県下の透析総施設数は61，登録患者数は3098名となっている．

2　組織と会員数

会長　　新里　健（新里ネフロクリニック，新里内科）
副会長　船越　哲（桜町病院，桜町クリニック）
監事　　菅　典義（菅医院）
　　松屋福蔵（国立病院長崎医療センター）
会員数　17名

3　目　的

本会は透析療法の技術向上発展に努め，地域における透析医療に貢献し，併せて会員相互の福祉，親睦を図ることを目的とする．

4　事　業

① 透析療法の導入および継続に関しその適正化を図るため，関係官庁基金審査会および医師会などと連絡協議を密に図ること．
② 腎不全予防，腎移植，そのほか腎不全対策の推進のために，県が行う活動に協力すること．
③ 透析療法の安全性および有効性の向上に関する調査研究と災害時の対策をたてること．
④ 透析療法の研究，教育および研修を行うこと．
⑤ 合併症を有する腎不全患者に対して医療の確保を図ること．
⑥ 長崎県腎不全対策協会と連携すること．
⑦ 日本透析医会の支部として，日本透析医会と連携して活動を行うこと．
⑧ そのほか，本会の目的を達成するために必要な事業．

5　今後の活動

長崎県腎不全対策協会との密接な連携のもと，当支部の目的に沿いながら本県透析医療の一段の発展を期して努力を重ねて行く所存であるが，このためにも，日本透析医会本部や各県医会はいうに及ばず，長崎大学医学部の関連部門や県内外の各透析施設との連携ならびに協力を仰ぎつつ透析患者の会などとも連絡をとりあって，ともに安全で充実した透析医療の環境づくりを行っていきたいと思っている．

稿を終わるにあたり，日本透析医会本部を始め各支部の先生方に長久なるご指導のほどをお願いして，長崎県透析医会発足の挨拶としたい．